

新しい学び舎の門出を祝う

～北海道登別^{せいりょう}青嶺高等学校開校式・入学式～

4月9日(土)、青葉町の北海道登別青嶺高等学校で開校式と入学式が行われ、出席者は新しい学び舎の門出を祝いました。

同校は、道立高等学校の適正配置計画に基づき、登別高等学校と登別南高等学校を統合し開校。

この日は、新しい制服に身を包んだ新入生200人をはじめ、保護者、在校生、教職員など計約900人が出席。最初に行われた開校式で、北海道教育委員会の島津宏興委員長が開校宣言を読み上げ、中村宣校長に校旗を手渡すとともに、校訓の至誠・錬磨・自律にふれながら、「新しい校風をつくってほしい」と式辞を述べました。

続いて行われた入学式では、中村校長が新入生への激励のことばとともに、「統合準備に当たった関係者に謝意を表すとともに、地域に信頼される学校にしたい」と述べ、新入生代表の平昌樹さんが「自らを厳しく律し、目標に向かって努力します」と決意を力強く宣誓しました。



元気に育てと願いを込めて

～郷土資料館『大空を泳ぐこいのぼりと五月人形展』～

4月5日(火)から、郷土資料館に約60匹のこいのぼりが掲げられ、道行く人の目を楽しませています。

こいのぼりは、小学校の入学式と5月5日のこどもの日を前に、郷土資料館ボランティアグループSLGの協力を得て、毎年この時期に掲げられているもので、市民から寄贈を受けたものが中心。黒や赤、青のマゴイ、ヒゴイなどが大空を勢良く泳いでいます。

また、4月8日(金)からは、文化伝承館(郷土資料館横)で五月人形展も開かれ、昭和初期製作のものをはじめ、市民から寄贈された五月人形などが展示されています。

見学に訪れた子どもたちは、製作年代やよろいかぶとなど、さまざまな五月人形に興味深そうに見比べていました。

こいのぼりと五月人形は、5月5日(木)まで見ることができます。なお、こどもの日にちなみ、5月5日(木)まで、小・中学生の入館料を無料にしています(5月2日(月)は休館日)。



アイヌ民族の文化を伝えるために

～アイヌ民族衣装展『ピリカノカ』～

3月20日(日)・21日(月)、アイヌ民族衣装展『ピリカノカ』が開催されました。

この衣装展は、アイヌ民族文化への理解を深めてもらおうと『ピリカノカの会』(上武やす子会長)が取り組んで今年で8回目の開催。ミブ(民族衣装)やマタンブシ(鉢巻き)、壁掛け、のれん、テーブルクロスなど約200点の作品が展示されたほか、知里真志保の特別展では真志保の母・ナミが作った民族衣装や本人が学生のころから亡くなるまで使っていた本棚、書籍なども展示されました。

訪れた方からは、「アイヌの歴史を感じる楽しい展示で、手づくりの温かさが伝わってきます。子供にとってもアイヌ文化に触れるいい機会、素晴らしい企画ですね」などの声が聞かれました。

